

御所見通信

2019年2月28日

3月号

藤沢市立御所見小学校

校長 三橋 雅幸

こんな所に道祖神

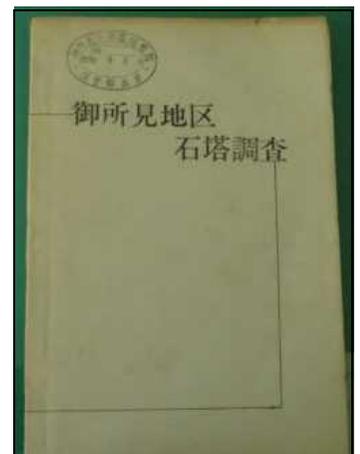
校庭の隅にコンクリート製の道祖神があります。道祖神とは、一般的に「集落の境などの境界や道の辻、三叉路などに主にまつられる神で、村の守り神、子孫繁栄、旅や交通安全の神」として、信仰されています。本当なら道路脇にあるはずの道祖神が校庭にあります。校庭が、昔、道路だったという記録もなく、どうしてここにあるのかわかりません。おそらく、付近の道路拡張で邪魔になった道祖神を、広い校庭の隅に移設したのだらうと考えることができます。コンクリート製というところからも、そんなに古いものではないと思われます。

御所見地区では、道端に道祖神をよく見かけます。市内でも御所見地区は道祖神や石塔が多い地域として知られています。大山山詣に使われた大山街道や徳川家康が愛用したと言われる中原街道などが通っているので、旅の安全ということから道祖神信仰が盛んだったのかもしれない。また、区画整理されることなく、昔からの道が残っているので、道祖神も昔のまま残っているのだと思います。道祖神の前を通りかかると、きちんと整備されているものが多いので、今でも、地元の方々に愛されていることがわかります。

毎年、小正月の1月14日におこなわれる“どんど焼き”は、別名“道祖神まつり”ともいわれます。以前、大鋸小学校に勤めていた頃、子どもたちを引率して、柄沢地区で道祖神ごとにおこなわれる“どんど焼き”を見学に行ったことを思い出しました。

学校に『御所見地区石塔調査』という本があります。今から37年前の1982年に当時の御所見小学校の2名の先生方で作った本です。76ページに渡り、手書きで書いた原稿を学校で印刷し、文集のように製本した本です。内容的には難しいところもありますが、子どもたちが学習で使えるようにと、1クラス分、大切に保管されています。一つ一つ検証をしたら、きっと、もう失われてしまったものもあると思います。なかなか教材として活用していくことはできませんが、40年近くたった今では、貴重な資料といえます。

御所見地区には、地域の人々の思いや願いが見られるもの・ことがたくさん残っています。今の子どもたちにも伝えていきたいと思っています。



校庭にある道祖神と『御所見地区石塔調査』の本